

平成30年度第2回 新発田市地域公共交通活性化協議会 議事録

1 日 時 平成31年2月1日（金）13:30～14:20

2 場 所 地域交流センター きやり館 2階 会議室

3 出席者 ・協議会委員

下妻勇会長、荒木和哉委員、庭山與一委員（代理：庭山奈津子）、吉澤覚委員（代理：平出宏征）、笹川岳之委員（代理：相羽朋紀）、倉島隆夫委員、五十嵐武志委員、長谷川芳三委員、大塚一彦委員、佐藤肇一委員、齋藤啓一委員、井藤太亮委員（代理：関本仁美）、関谷浩委員（代理：小松美保子）、佐藤美由紀委員、久志田実委員

以上15名

・事務局（市民まちづくり支援課 公共交通推進室）

中野修一課長、宮村崇康室長、佐藤芙美子係長、蒲木みゆき主任、齋藤正太郎主事

4 会議概要

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

日曜日の2月3日が節分である。節分を過ぎれば春になるが、今日は出勤直前に除雪車が来たので、雪を片付けてから出勤してきた。今年は正月も穏やかな珍しい年だった。去年は豪雪だったが、今年は良かったと思っている。

去年は除雪に14億円くらいかかった。国土交通省からの支援や特別交付税の措置もあり、半分近くはご支援をいただいたが、それでも6～7億円が一般財源で、それが今年のような事業に影響を与えている。今年も除雪が少ないと思っていたが、やはり足りないということで、先日2億円ほど専決処分をした。市街地は1回くらいしか除雪が出ていないが、当市で最も降雪の多い赤谷地区では10回くらい出ている。菅谷地区等はコミュニティバスが走っている関係で、丁寧に除雪をしており、山手はそれなりに出勤しているという状況である。皆様方のお陰で、公共交通の運行は、遅延や事故等のトラブルもなく、順調に運行している。重ねて感謝申し上げたい。

本日は議案が1件で、今年度、実証運行をしている松浦地区デマンド乗合タクシー「まつうら号」が運行開始から約1年が経過する。様々な取組を実施しているが、なかなか実績が上がってこない状況であり、来年度も実証運行を延長させていただきたいというものである。

より良い公共交通として今後も取組が進められるよう、ご意見・ご指導を頂戴したい。

(3) 議 事

【第1号議案】松浦地区デマンド乗合タクシーの実証運行について

事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。

委 員 : 便を1便増やして、停留所を3つ増やすという判断をなぜしたのかが、送られてきた資料だけでは分からなかったのも、それを伺おうと思っていた。10月に利用者アンケート調査をしたとあるので、その結果が理由だと思うが、どういふ結果かが分からないと、1便増やしていいのか、停留所を3つ増やしていいのかについて、意見が言えない。アンケート結果とその解釈について説明願いたい。

事 務 局 : 利用者アンケートの項目として、どこからどこまで利用しているか、何便を利用しているか、見直し前のダイヤのどの便が使いやすくて、どの便が使いにくいかわかったところ、帰りに良い便がないとの意見が多かった。見直し前は帰りの1便が新発田駅12:50発、2便が16:00発で、時間が空いていた。例えば、通院の場合、診察が長引くと1便に乗れず、2便まではなかなか待てないとのことであった。帰りの便は何時くらいが良いか聞いたところ、最も多かったのが14時台で、このアンケート結果を活かす形で12月に14:30発の便を増やした。その結果、帰りの利用者数が増えた。

停留所を増やすことについては、アンケートとは別に、松浦地区公共交通協議会の会議で委員から意見があり、それを活かした。区長が主なメンバーだが、利用者の意見を聞く中で、新発田駅に直接行くのではなく、市役所や銀行に行ければ良い、特に高齢になると歩くのが大変であるとの意見が多くあった。その意見を踏まえ、交通事業者と協議し、乗車のみ、あるいは、降車のみとして来年度から実施させていただきたいと考えた。

委 員 : 私も、どんな理由で変えるのか伺いたかった。停留所の件についても、路線バスのルートのため、交通事業者と協議したかを伺いたかったが、説明の中で、協議したとのことだったので、理解した。

委 員 : 昨年4月から実証運行を皆様方のご理解の下、運行できていることに感謝申し上げます。

以前の路線バスが、なかなか利用が難しかったため、数年前から検討してきた結果、実証運行となった。

高校生については、当初の計画の段階でのアンケートは、高校生が書いたのではなく、保護者が希望的観測で書いたと思われる。実際は親や祖父母に送迎してもらった方が楽なため、利用が少ないと思っている。

最も利用されていた通院の高齢者からは、いろんな意見があった。特に説明のあったルート変更については、以前の路線バスが変更ルートを通っていたため、なぜ行けないのかという話が再三出ていた。今日ここに来るときに「まつうら号」を使って、新発田駅で降りて歩いてきたが、この距離では高齢者が歩くの

は大変だと体感してきた。

まだまだ地域では希望がたくさんあるが、なかなか全部を一緒に叶えることはできないということもある。まずは今回の提案をご理解いただきたい。

以上の質疑の後、議長から諮り、全員異議なく承認された。

(4) 報 告

① 書面協議の結果について

事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。

(質疑等なし)

(5) その他

委 員 : あやめバスについて高齢者から話があった。運賃の支払方法は、今現在11枚綴りの紙の回数券か現金だが、降りるときに非常に手間取るので、定期券がほしいとのことだった。障がい者は手帳を提示して降りているが、高齢者の場合、日によっては3つの医療機関に通うこともあり、その度、ポケットや財布から出さないといけない。また、回数券が足りなくならないか気になって仕方がないとのことだった。もう少し使い勝手の良い方法はないかという話があったので、お伝えした。(要望)

事 務 局 : 平成30年4月から東小学校が学校統合となり、赤谷や米倉の子どもたちが路線バスを使って通学している。昨年が大雪だったこともあり、保護者からバス停付近に雪がたまっていると危ないとの心配の声があり、道路管理者である県や市に除雪をお願いした経緯がある。非常に丁寧に除雪されており、感謝申し上げる。

(6) 閉 会